

第2次南砺市交流観光まちづくりプラン マネジメント会議 議事録

日 時 令和5年8月18日(金) 10:00~12:00

場 所 南砺市役所別館3階 大ホール

出席者 佐藤悦夫委員、此尾治和委員、竹中雅司委員、日野淳一委員、遠藤あずさ委員
徳田琴絵委員

(オブザーバー参加) 東田晃(五箇山合掌の里)、村井隼人(東日本旅客鉄道株式会社北陸営業センター)

(欠席委員) 林口砂里委員

事務局 ブランド戦略部 岩佐部長

交流観光まちづくり課 三浦ブランドプロモーション室長、江川、前寺、福島

JTB総合研究所 安藤

ブランド戦略部各課長

資料

1. 開会 田中市長挨拶

今回、第2次まちづくりプランを策定いただき、その中でもプラン策定後から3年以内に着手するリーディングプロジェクトを7つ、先駆けて進めていくことになる。色々な観光の施策がある中で、特徴的なもの生み出し、トライしていく必要がある。北陸新幹線敦賀開業や関西大阪万博の開催を見据えると、今年は観光にとってチャンス的一年。

南砺市は、本日18日からいなみ国際木彫刻キャンプもあり、来週になれば、福野でスキヤキ・ミーツ・ザ・ワールドの開催、利賀ではSCOT サマーシーズン2023が9月の上旬まで開催している。世界に発信できるイベントがこれだけそろっているのは大きな強み。それぞれの地域で色々ことを単発で行ってきた南砺市かもしれないが、未来につなげるため集約し、新たな顧客へどう売り込んでいくかが重要。

マネジメント会議の皆様には、忌憚のないご意見をいただき、南砺の特色、個性を生かした観光のプランを考え、大胆にトライしてもらいたい。

2. 公募委員紹介と委員長選出

(1) 公募委員紹介(2名)

遠藤あずさ委員、徳田琴絵委員

(2) 委員長・副委員長選出

委員長：佐藤悦夫委員、副委員長：此尾治和委員

3. (報告と確認) まちづくりプラン各施策(推進事項)の進捗状況について【事務局より】

(1) 各施策（推進事項）の評価・検証シート及び全体確認シートでの報告

- ・評価検証シート、全体確認シートを用いた今後の流れについての説明
- ・23項目について共有・確認

(2) 個別案件「月次データ活用」の進捗報告

- ・観光協会のHP（南砺市観光統計データ など観光予報）にて月次データをコメントつきで掲載
→今後、観光協会HPにデータを集約していく。事業者自身がデータ抽出可能に。すでいくつか掲載されているため、活用していただきたい。
- ・今後の方針、予定
→完成系ではなく、まずは月次掲出の定着、あらゆる機会での利用の啓蒙、新しいデータの追加もまちづくりプラン各会議体でも共有しながら進めていく

(3) その他

- ・ワーキング会議の内容の確認、合掌の里の再生について次の項目で説明予定

(委員長) 観光協会のHPに月次データを集約していくうえで、事業者の方にどんなデータが必要か、一番欲しいデータは何か、アンケートなどを取り把握するのが良いと考える。

4. (共有と確認) 各会議内容と今後の進め方について【事務局より】

(1) ワーキング会議（6/9）の内容と今後について報告と確認

- ・宿泊・飲食・交通事業者等が連携した「南砺の一宿構想」の推進（チームA）
→前回チームAは、スキー場に来場した方に市内への回遊を促したり、グリーンシーズンに来てもらうにはどうしたらいいかアイデアフラッシュを行った。色々な面白い意見も出たので、それらを参考にスキー場事業者と個別に市・観光協会等で今後について相談し、進めていく予定。
- 今回は、グーグルマップのマイマップを作るというテーマで議論。グーグルマップは、幅広く利用されており、インバウンド観光客の利用もある。マイマップの活用で、訪問客の利便性や市内の周遊効果アップも見込めると考えている。

- ・「来訪者旅アト消費促進のしくみ構築」（チームB）

- 前回は、事業のアイデアフラッシュを実施。（新しくECサイトを立ち上げては？地域商社を作っては？など）今回は、テーマを絞り、単なる告知チラシ・手法の検討にとどめず、例示した商品をどうアピールし、来訪者の心を浸透させられるかをテーマに議論。商品の物語（ストーリー）を伝えることを考え決める。

(2) 戦略会議（6/9）の内容と今後について

- ・専門的な立場から4名の方に情報共有いただいた

- ・ワーキング会議のメンバーの中に戦略会議メンバーも入っていただきテーマ別に議論を実施。
前回は、ワーキング会議と戦略会議を同時に行ったが、今回は、一緒に議論しつつ、ワーキング会議終了後に戦略会議メンバーから講評をもらい、今後の会議運営、各推進方について助言をいただく事にする。

(副委員長) ワーキング会議と戦略会議のメンバー表を共有してもらえないか。

(市事務局) メンバー表を配布する(会議内で配布済み)

(委員長) 前回、オブザーバーとしてワーキング会議に出席した。ワーキング会議メンバーは、最前線で活躍されている人ばかりであるので、非常に良い議論ができていたと思う。

1つでも多く、実現できればと考える。

(A委員) グーグルマイマップを作っただけだと非常に助かる。他の地方に足を運ぶことが多いが、その土地のことを知らないため、地域のおすすめがまとまったマップがあるとありがたい。旅アト消費についても、地域のファンになることで、消費も増えるのではないかと考える。商品の物語やストーリーがわかる(たとえば、TV番組の青空レストランとか)と、購買行動につながる。(生産者の思いや、生産者がおすすめする調理方法などがわかれば)訪れたいと思えるきっかけにもなる。

(市事務局) ワーキング会議について、今回は、議論から具体的な推進につながる内容を決定することを念頭において進めていく。まずゼロからイチにできるよう動き、議論のための議論にならないよう進めていく。

5. (協議)「合掌の里の再生」について【事務局より】

(1) 事務局より資料(数値シミュレーション等)と協議方針について説明

- ・市としては、収益事業として存続させることで進めていく。今回は、前回の意見を基に短期、中長期にわけて議論。
- ・直近5年間の収支内訳及びR5年度予算の対比
- ・直近5年宿泊棟別/収入内訳/宿泊単価(参考資料)
- ・今後の補助金(指定管理料)の推移など

(2) 「短期目線」、「中長期目線」で協議

- ・短期目線での検討 ターゲットを明確にし、スピード感のある対応を行う
宿泊数・単価向上の取り組みを加速し、「稼ぐ力」を装備する。
 - ① コテージ宿泊と体験コンテンツの充実
 - ② セミナー、研修、ワーケーション需要強化(Wi-Fi環境の重装備化)

・中長期での検討 「空間」「箱」として活用し身近に感じ、共感される施設へ観光特化にしない利用目的で幅広く検討する。バーチャル主体かリアル主体か議論したい。

案1 バーチャルの「空間」としての活用検討

バーチャル上（リアルも絡めつつ）で合掌造り・世界遺産の理解者が集まるスペース・コミュニティをつくる。（メンバーシップ制等）

案2 リアルの「箱」としての活用検討

「感じる」「学べる」「触れる」道の駅（仮称）を目指す。

（委員長）まずは、基本的な確認事項があれば、質問を。

（市事務局）今回の第1回の会議で合掌の里の短期・中長期についての議論をする。次回の会議は、この話題については扱わないのか？

（市事務局）いったんここで、中長期については、方向性を決めたいうで進めていく。そのあと、皆様にも随時情報共有をさせていただく。協議については、今回で終わりにする予定。

（委員長）それでは、具体的な議論を進めていく。合掌の里の再生のための短期目線、中長期目線の提案についての意見は？

（B委員）短期の提案については、コテージ宿泊をメインとするのか？中長期の提案については、保存がメインと考えるのか？

（市事務局）短期提案ではコテージ宿泊をメイン。中長期については、保存がメインで進めて行く予定。

（B委員）中長期については、予算がどれだけ確保できるのかということもある。短期については、地元や現在の指定管理者の協力をいただけないとできない部分。ハード面は、お金で解決できるかもしれないが、ソフト面のおもてなしの面がしっかりできるかが重要。

（市事務局）中長期については、事務局として、方向性を定めたいうで、事業者さんと進めていきたい。

（C委員）お盆に合掌の里に行ったが、入り口が分かりづらく、駐車場にたどり着けなかった。小さい看板が1つだけで、合掌の里メインで行く人にはわかりづらい気がする。近くに菅沼集落やささら館もあるので、全体で協力し、合掌の里にも呼び込めるよううまく連携できれば。草が生えており、あまり長居したいと思える景観ではなかったため、草刈り自体も全体で協力できたらと考える。

（A委員）自分自身、ワーケーションをよく行うが、ワーケーションではホテルや宿泊施設をメインに滞在する。周囲にお食事処や癒しのスポット、地域活動ができるところがあると、周遊性につながる。ふ

らっと見てまわれる周りの環境づくり。ワーケーションは、ワークの時間が長いので、1つの空間で集中できる、長く滞在する施設のラグジュアリー感や施設の充実さが大事。ワーケーションする人が重宝している「旅のサブスク「HafH」」(ハフ)のサイトで、情報発信できたら面白いかも。

(D委員) 合掌の里を残すと考えたときにどんなものをどんなふうにも1番に推していきたいか考えていく必要がある。観光に特化せず、幅広く検討していくのであればなおさらどんな風に積極的に推していくのか検討。短期、中長期を見据え、逆算して流れを作っていくことが重要。

(副委員長) 金沢八家の方を合掌の里に招待し、報恩講料理の提供とこきりこ踊りを見てもらった。関係者の方から大絶賛され、インバウンド客にも刺さるはずと今後の可能性が大変大きいと感じた。ただ、マンパワー不足で、継続が難しい面もある。市の方でコテージを3棟改修し、冬も泊まれるので、活用できたら。ターゲットをしっかりとしぼり、受入体制を整えれば、可能性があるはず。

(委員長) 公共交通機関を利用して来られたインバウンド客への食事や買い物のサポートとかも考えられたら。

(C委員) 中長期についても、五箇山全体で見ると観光資源が豊富なので全体で連携できたら。回遊性が生まれる仕組みづくり。

(委員長) 合掌の里中心に回遊性が生まれればよいのでは？。

(A委員) 中長期目線は、地域のファンづくりが重要。メンバーシップ制を導入するにしても、コアとなる周りの人を巻き込むようなストーリーがあってこそ成り立つのでは。合掌の里においての思いや叫びを考える必要がある。

(B委員) 合掌の里を売り込むための核の部分を考える必要がある。合掌の里の直近5年の収支内訳をみたときに、R2が前年より収入が伸びているのはなぜか。(その後は、コロナ禍の影響で収入が下がってはいるが…)

(合掌の里支配人) 自主事業で行っている報恩講料理含めた昼食の提供を始めたことでの伸び。コロナになり、その後収入は減少。

(B委員) これだけ、「伸びしろ」があるのであれば、やはり食事をメインに考えていくのもいいのかもしれない。

(市事務局) 今後、指定管理料は、R11でゼロになる。そういったことを踏まえて、合掌の里をどう活か

すのか、今まで先延ばしてしていた部分があるのでそろそろ明確にしなければならない時期が来ている。出した結論が、市民の皆様や全事業者にご理解いただけるよう検討していきたい。実現に向けて、みなさまのご意見、アイデアをどしどし頂戴したい。

(市事務局)

市としては、中長期については、バーチャルの「空間」としての活用を検討していきたい。

6. 閉会

(副委員長)

挨拶、今後のワーキング会議や戦略会議メンバーの議論に期待したい。

以上